

『十地経』のテキストに関して

金 京 南

1. はじめに

『十地経』のサンスクリット校訂本としては J.Rahder の *Daśabhūmikasūtra* (1926) と近藤隆晃の *Daśabhūmīśvaro nāma Mahāyānasūtra* (1236) が挙げられるが、いずれにも校訂上の問題の少なくないことは Yuyama [1996] ¹⁾ においてすでに指摘されている通りである。本稿では、特に初地の冒頭における発心の箇所をめぐって、サンスクリット写本を中心に、漢訳・チベット訳との比較検討を通して、『十地経』のテキスト上の異同とその背景について考えてみたい。

2. テキスト

(1) 写本

『十地経』の書誌情報は Yuyama [1996] に詳しく紹介されているが、それを踏まえて、現在確認されている諸写本を挙げると以下の 17 本である。右の R, K はそれぞれ Rahder 本と Kondo 本に用いられた写本を、そして O は筆者の入手済みの写本を表す。

No.		R	K	O
1	Calcutta: Asiatic Society of Bengal, B.45	○	○	
2	London: Royal Asiatic Society, Hodgson Collection No.3	○	○	
3	Cambridge University Library, Add.867.2 (124 folios)	○	○	○
4	Cambridge University Library, Add.1618 (138 folios)	○		
5	Bibliothèque Nationale, Fonds Sanscrit, No.51 (142 folios)	○	○	○
6	Bibliothèque Nationale, Fonds Sanscrit, No.52 (138 folios)	○		○
7	Toyko University Library, No.165 (137 folios) ²⁾		○	○
8	Toyko University Library, No.166 (104 folios)		○	○
9	Toyko University Library, No.167 (87 folios)		○	○
10	Kyoto University, No.47 (104 folios)		○	○

11	Kyoto University, No.48 (149 folios)			○
12	NGMPP Reel Number A114/4 (215 folios) ³⁾	○		○
13	NGMPP Reel Number A114/5 (170 folios)			○
14	NGMPP Reel Number E1922/1 (133 folios, 3 folios missing)			○
15	Manuscript A. No.3-737 (55 folios, 6 folios missing) ⁴⁾			○
16	Manuscript B. No.3-359 (69 folios, 27 folios missing)			○
17	中央アジア写本 Turfan collection, Ms No.414			

校訂本に用いられた写本のうち, No.3 と No.9 は古いもの, それ以外は新しいものとして分類されているが, いずれも 18-19 世紀の成立であるので, 比較的新しい写本といえる. それに比べて, ネパール国立古文書館所蔵の写本 A (No.15) は唯一の貝葉写本として, 5-7 世紀の成立と推定されている ⁵⁾.

(2) 漢訳・チベット訳

現在伝承されている『十地経』の漢訳およびチベット訳は, 以下の通りである.

竺法護訳『漸備一切智徳経』(297 年)

鳩摩羅什訳『十住経』(402-412 年)

仏駄跋陀羅訳『六十華嚴』中「十地品」(418-420 年)

実叉難陀訳『八十華嚴』中「十地品」(695-699 年)

戸羅達摩訳『仏説十地経』(753-790 年)

Jinamitra, Surendrabodhi, Ye shes sde 訳 *Sangs rgyas phal po che shes bya ba shin tu rgyas pa chen po'i mdo* (D. No.44, P. No.761) の sa bcu pa'i mdo (9 世紀初頭)

3. 諸写本および諸訳の比較

初地の冒頭には発心の内容が説かれているが, 特に発心の条件と目的を述べる最初の二節を例に挙げると以下の通りである.

汝ら仏子たちよ, 善根がよく集められ, 諸行がよく行われ, (中略) すぐれた信解が具えられ, 慈悲が現前する時, 諸々の衆生にとって菩提に向かって心が生起する.

仏智を願い求めるために (a), 十力の力を得るために, 大いなる無畏を得るために, (中略) そして大法輪を転ずるに無畏となるために (b), 諸々の菩薩にとってその心が生起するのである. ⁶⁾

3.1. (a)

まず, 第二節の初句についてである. 龍山 [1938] ⁷⁾ には, 対応するチベット訳の「一切智者の智を信解する」(nam pa thams cad mkhyen pa'i ye shes la mos pa) は不

(128)

『十地経』のテキストに関して (金)

要であるとされ、訳本の異同に関する注記はない。ところで、チベット訳において「仏智云々」は、「仏智を願い求める者は」(sangs rgyas kyi ye shes la mngon par mos pa rnams)として第一節の末尾の「慈悲が現前する」の後に位置しており、第二節の初句が「一切智者の智を信解する」になっていることが分かる。

漢訳もまた二種に大別される。すなわち、『漸備一切智徳経』と『十住経』はそれぞれ、第一節の末尾を「心常志慕諸仏聖慧」「好求仏智慧」、第二節の初句を「皆令至真好一切智」「為得一切種智故」とし、チベット訳と一致する。それに対して、『八十華嚴』と『仏説十地経』には「仏智を願い求める者」に対応する句がなく、第二節の初句を「為求仏智[故]」とし、梵本に一致する。

一方、写本を検討してみると、チベット訳などにみられる第一節の「仏智を願い求める者は」の句を持つ写本は現在のところ見当たらない。一方、第二節の初句においては、ほとんどの写本が buddhajñānābhiḥilāṣāya にしているのに対し、写本 A のみが別の読みを持っていることが分かる。すなわち、写本 A は bodhāya cittam utpadyate を欠いており、その直後 buddhajñānābhiḥilāṣāya に該当する箇所が sarvvakā... (7a1) になっているため、チベット訳などの「一切[種]智」に対応する可能性がある。

ちなみに、『十地経論』(菩提流支, 508-511) の場合、チベット訳などに見られる第一節の「仏智云々」は節の末尾ではなく、上記引用文の「すぐれた信解が具えられ」に当たる句に続いて「信樂大法好求仏智慧」となっている。但し、チベット訳を見る限り、所引経も注釈の中の経文も両方「rgya chen po la mos pa dang ldan pa」のみになっており、『十地経論釈』も「mos pa rgya chen po dang ldan pa yin no」としていることから、『十地経論』に見られる「好求仏智慧」は漢訳の段階での編入と考えられる。

3.2. (b)

次は、第二節の最後の句である「大法輪を転ずるに無畏となるために」についてである。中でも vaiśāradya (無[所]畏) に注目したい。この語において、校訂本や諸写本による異読は見られない。しかし、訳の間には異同が見られ、チベット訳は vaiśāradya に対応する mi 'jigs pa ではなく khyu mchog gi mthu dbyung ba = vṛṣabha (牛王) になっている。これは同経の第九地に見られる「如来の法輪を転ずる牛王性に入る[時、第九の菩薩地に入る。]」という用例からも確認できる⁸⁾。

次に漢訳であるが、『漸備一切智徳経』の「療衆疾病」という訳語については、

vaiśalya (deliverance from a painful incumbrance)⁹⁾ の読み、あるいは竺法護による意識という二つの可能性が考えられる。また、『十住経』の「...自在で、広く仏神力を示現する」は上記の脚注 8) に示した用例に照らしても vṛṣabha の訳であることが分かる。問題は「広く示現する」であるが、少なくとも「広い」はチベット訳が対応語 (rgya chen po) を持っており、また写本 A に vaiśāradyavaipulyāya (7a) の読みがあることから、単なる意識ではなく『十住経』を経てチベット訳に伝わるもう一つの伝承があったことが考えられる。

一方、『八十華嚴』と『仏説十地経』は「無所畏」とし、梵本に一致する。vaiśāradya になったのは上記引用文の第三句の「大いなる無畏を得るために」(mahāvaiśāradyādhigamāya) に影響された結果であろうか。

4. 結論

以上の考察の結果まとめると以下のようである。

- ①今回扱った写本の中で最も古い写本 A は、他の写本に比べて別の読みを伝えることが多い。
- ②梵本校訂本 (Rahder 本, Kondo 本) は No.3 と No.9 以外のやや新しい写本群の読みによることが多い。
- ④チベット訳は 9 世紀初頭の訳出であるが、諸写本に照らして比較的古い読みを保存していることが判った。新旧漢訳との関係については、訳語の考察を含め、今後の課題にしたい。

1) A.Yuyama [1996] *A Critical Survey of Philological Studies of the Daśabhūmikasūtra*

2) Yuyama [1996] の脚注 10 (p.268) には東大写本の番号と内容との対応に誤りが見られるので訂正する。

3) この写本は Kathmandu 写本 (Royal Library) と同一のものである。

4) K.Matsuda [1996] *Two Sanskrit Manuscripts of the Daśabhūmikasūtra*, *Bibliotheca Codicum Asiaticorum* 10, Tokyo 所収

5) Matsuda [1996] pp.16-18 参照。

6) Skt. (Rahder ed. p.11) :

tatra bhavanto jinaputrāḥ sūpacitakuśalamūlānām sucaritacaraṇānām udārādhimuktisamanvāgatānām kṛpākaruṇābhīmukhānām bodhisatvānām bodhāya cittam utpadyate/
buddhajñānābhilāṣāya daśabalabalādhigamāya mahāvaiśāradyādhigamāya mahādharmackrapravartanavaiśāradyāya ca// taccittam utpadyate bodhisatvānām

Tib. (D.Kha.174b3) :

(130) 『十地經』のテキストに関して (金)

kye rgyal ba'i sras dag// de la sems can dge ba'i rtsa ba shin tu bsags pa spyad pa shin tu spyod pa..... mos pa rgya chen po dang ldan pa/ snying rje dang snying brtse ba mngon du gyur pa/ sangs rgyas kyi ye shes la mngon par mos pa mams nam pa thams cad mkhyen pa'i ye shes la mos pa dang/ stobs bcu'i stobs thob par bya ba dang/ mi 'jigs pa chen po thob par bya ba dang/ chos kyi 'khor lo chen po rab tu bskor ba la khyu mchog gi mthu dbyung ba rgya chen po 'thob par bya ba'i phyir

『漸備一切智德經』(T10,461a30-b1) :

仏子且察。諸集衆生積累德本。所行真諦而無虛偽。..... 篤信微妙定意平等。面睹現在愍念慈哀。心常志慕諸仏聖慧。化諸衆生悉發道心。

皆令至真好一切智。其十種力強而有勢。則得遊行大無所畏。..... 轉大法輪療衆疾病。菩薩大士須臾發意。

『十住經』(T10,500b11-13) :

諸仏子。若衆生。厚集善根。修諸善行。..... 信樂大法心。多向慈悲。好求仏智慧。如是衆生乃能發阿耨多羅三藐三菩提心。

為得一切種智故。為得十力故。為得大無畏故。..... 為自在轉大法輪廣示現仏神力故。諸菩薩摩訶薩。生如是心。

『八十華嚴』(T10,181a13) :

仏子。若有衆生。深種善根。善修諸行。..... 生廣大解。慈悲現前。為求仏智故。為得十力故。為得大無畏故。..... 為轉大法輪無所畏故。

『仏説十地經』(T10,538a11) :

唯諸仏子若有有情。善積善根。善修諸行。..... 具妙勝解。悲愍現前。為求仏智。為欲証悟十力之力。為獲如來大無所畏。..... 為無所畏轉大法輪。發如是心。

7) 龍山章真 [1938] 『梵文和訳十地經』破塵閣書房

8) tathāgatadharmacakrapravartanavṛṣabhatām cānukramamāṇaḥ/ (Rahder ed. p.73)

de bzhin gshegs pa'i chos kyi 'khor lo bskor ba dang/ khyu mchog gi mthu phyung ba'i rjes su 'brang bar bya ba dang/ (D.Kha.251b1-2)

『漸備一切智德經』轉于法輪歸趣境土。 (T10,486a5)

『十住經』轉法輪力。 (T10,524c4)

『八十華嚴』轉法輪。 (T10,186b9)

『仏説十地經』轉妙法輪入雄特性。 (T10,563b19)

9) Monier, *Skt.-Eng.Dic.*, p.1026 col.1.

〈キーワード〉 『十地經』, テキスト, 写本

(東京大学大学院)